

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2025年3月14日
【発行者名】	中銀アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 中西 啓介
【本店の所在の場所】	岡山県岡山市北区柳町2丁目11番23号
【事務連絡者氏名】	大賀 倫子
【電話番号】	連絡場所 岡山県岡山市北区柳町2丁目11番23号 086-224-5310
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	せとうち応援株式ファンド（愛称：せとうちサポーター）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	継続申込期間（2025年3月15日から2025年9月16日まで） 500億円を上限とします。 ＊なお、継続申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

せとうち応援株式ファンド（愛称：せとうちサポーター）
（以下「ファンド」といいます。）

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の振替内国投資信託受益権です。（当初元本は１口当たり１円です。）

委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第２条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である中銀アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

500億円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

１口当たりの発行価格は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、決算日の基準価額とします。

「基準価額」とは、ファンドの計算日の純資産総額を計算日の受益権総口数で除した１口当たりの純資産価額をいいます。基準価額は、組入有価証券等の値動き等により日々変動します。なお、便宜上１万円当たりで表示されることがあります。

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

<受付時間> 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

（５）【申込手数料】

申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額）に、販売会社が独自に定める手数料を乗じて得た額。

有価証券届出書提出日現在の手数料率の上限は、3.3%（税抜3.0%）です。手数料は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にご確認ください。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合、申込手数料はかかりません。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

※なお、販売会社につきましては、後記（８）[申込取扱場所]に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（６）【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

確定拠出年金制度をご利用の場合のお申込みは１円以上１円単位です。（「分配金再投資コース」でのお申込みとなります。）

※なお、販売会社につきましては、後記（８）[申込取扱場所]に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（７）【申込期間】

2025年３月15日から2025年９月16日まで

※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

（８）【申込取扱場所】

当ファンドのお申込みにかかる取扱い等は販売会社が行っております。

販売会社につきましては、委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

（９）【払込期日】

取得申込者は、お申込みをされた販売会社が定める所定の日時までに、買付代金を販売会社に支払うものとします。各取得申込日の発行価額の総額は、販売会社によって、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座（受託会社が信託事務の一部について委託を行っている場合は当該委託先の口座）に払い込まれます。

（１０）【払込取扱場所】

取得申込を行った販売会社で払込の取扱いを行います。

詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

※なお、販売会社につきましては、前記（８）[申込取扱場所]に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（１１）【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権に係る振替機関は、株式会社 証券保管振替機構です。

（１２）【その他】

お申込みに際しては、販売会社所定の方法でお申込みください。

また、確定拠出年金制度のご利用によるお申込みの場合には、確定拠出年金制度にかかる手続きが必要となります。この場合、「分配金再投資コース」でのお申込みとなります。

当ファンドは、収益の分配が行われた場合に収益分配金を受領する「分配金受取コース」と、収益分配金を申込手数料なしで再投資する「分配金再投資コース」がありますが、お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。「分配金再投資コース」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で「累積投資に関する契約」にしたがって分配金再投資に関する契約を締結します。なお、販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

また、あらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。

当ファンドのお申込みは、原則として販売会社の毎営業日に行われます。お申込みの受付は、原則として午後３時30分までにお申込みが行われ、かつ、お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、お申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けたお申込みの受付を取り消すことができるものとします。

振替受益権について

ファンドの受益権は、投資信託振替制度（以下「振替制度」と称する場合があります。）における振替受益権です。

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記（１１）【振替機関に関する事項】に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記（１１）【振替機関に関する事項】に記載の振替機関の業務規程、その他の規則にしたがって支払われます。

ファンドの受益権の発生、消滅、移転を、コンピュータシステムにて管理します。

ファンドの設定、解約、償還等が、コンピュータシステム上の帳簿（「振替口座簿」といいます。）への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

申込証拠金はありません。

日本以外の地域における発行はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

① ファンドの目的

この投資信託は、信託財産の成長を目指して運用を行います。

② 信託金の限度額

委託会社は、金500億円を限度として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

③ ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信／内外／株式」に分類されます。

ファンドの商品分類は、以下のとおりです。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国 内	株 式
	海 外	債 券
追加型投信	内 外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を含む)		
	年2回			
	年4回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年6回 (隔月)	北米	ファミリーファ ンド	あり (部分ヘッジ)
	年12回 (毎月)	欧州		
	年12回 (毎月)	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信	その他 ()	中南米	ファンド・オ ブ・ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券(株 式、一般))		アフリカ		
		中近東 (中東)		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行うため、投資信託証券を通じて収益の源泉となる資産に投資しますので、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券）」となり、商品分類における投資対象資産（収益の源泉）である「株式」とは分類・区分が異なります。

商品分類および属性区分の定義につきましては、下記をご覧ください。なお、一般社団法人投資信託協会のインターネットホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でもご覧いただけます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は以下のとおりです。

〔商品分類表の定義〕

《単位型投信・追加型投信の区分》

- （１）単位型投信・・・当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- （２）追加型投信・・・一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

《投資対象地域による区分》

- （１）国内・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- （２）海外・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- （３）内外・・・目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資対象資産による区分》

- （１）株式・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- （２）債券・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- （３）不動産投信（リート）・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- （４）その他資産・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記（１）から（３）に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な組入資産そのものの名称記載も可とする。
- （５）資産複合・・・目論見書又は投資信託約款において、上記（１）から（４）に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《独立した区分》

- （１）MMF（マネー・マネージメント・ファンド）・・・「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- （２）MRF（マネー・リザーブ・ファンド）・・・「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- （３）ETF・・・投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

《補足分類》

- （１）インデックス型・・・目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- （２）特殊型・・・目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、「属性区分表の定義」で《特殊型》の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外的小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

〔属性区分表の定義〕

《投資対象資産による属性区分》

(1) 株式

- ① 一般・・・次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。
- ② 大型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。
- ③ 中小型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

(2) 債券

- ① 一般・・・次の国債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。
- ② 公債・・・目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- ③ 社債・・・目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- ④ その他債券・・・目論見書又は投資信託約款において、国債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- ⑤ 格付等クレジットによる属性・・・目論見書又は投資信託約款において、上記①から④の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記①から④に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

(3) 不動産投信・・・これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

(4) その他資産・・・組入れている資産を記載するものとする。

(5) 資産複合・・・以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

- ① 資産配分固定型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。
- ② 資産配分変更型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

《決算頻度による属性区分》

- (1) 年1回・・・目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
- (2) 年2回・・・目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
- (3) 年4回・・・目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
- (4) 年6回（隔月）・・・目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
- (5) 年12回（毎月）・・・目論見書又は投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいう。

（６）日々・・・目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

（７）その他・・・上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

《投資対象地域による属性区分（重複使用可能）》

（１）グローバル・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

（２）日本・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（３）北米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（４）欧州・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（５）アジア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（６）オセアニア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（７）中南米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（８）アフリカ・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（９）中近東（中東）・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（１０）エマージング・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資形態による属性区分》

（１）ファミリーファンド・・・目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。

（２）ファンド・オブ・ファンズ・・・「投資信託等の運用に関する規則」第２条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

《為替ヘッジによる属性区分》

（１）為替ヘッジあり・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。

（２）為替ヘッジなし・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

《インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分》

- (1) 日経225
- (2) TOPIX
- (3) その他の指数・・・上記指数にあてはまらない全てのものをいう。

《特殊型》

- (1) ブル・ベア型・・・目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動（一定倍の連動若しくは逆連動を含む。）を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 条件付運用型・・・目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3) ロング・ショート型／絶対収益追求型・・・目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4) その他型・・・目論見書又は投資信託約款において、上記（1）から（3）に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

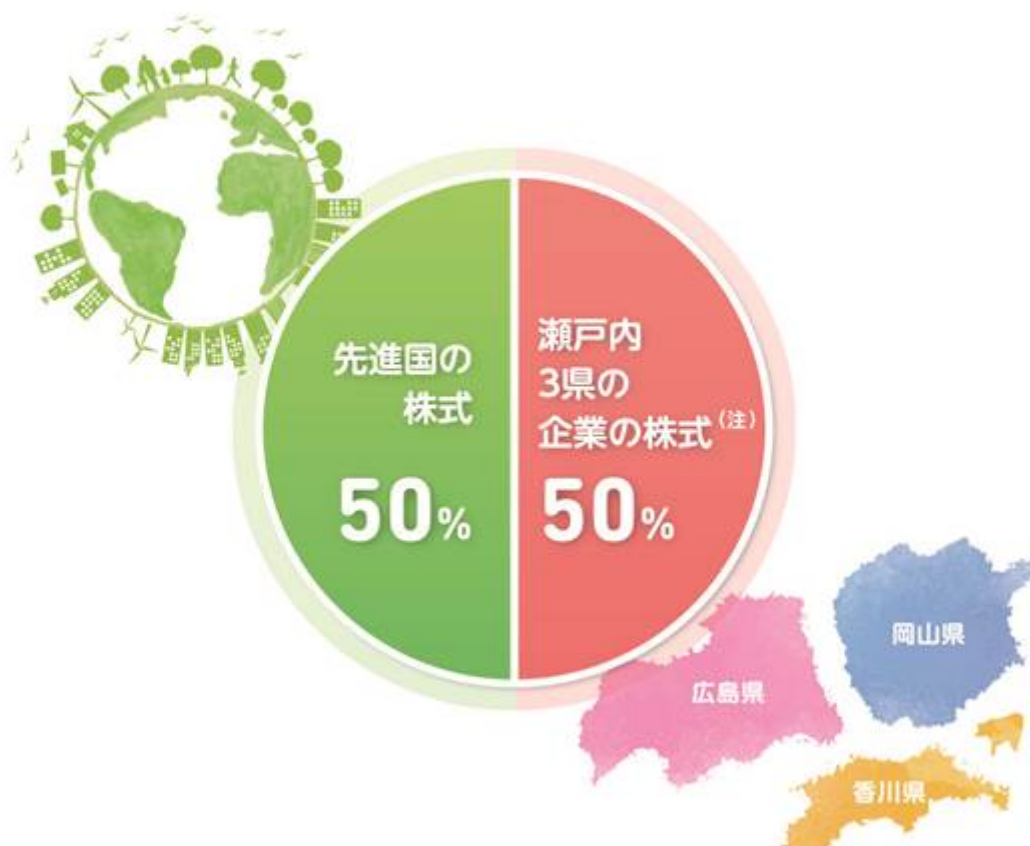
④ ファンドの特色

瀬戸内3県の企業の株式および先進国の株式へ実質的に投資します。

※「瀬戸内3県の企業の株式」部分の運用は瀬戸内3県株式マザーファンドを通じて行います。

※「先進国の株式」部分の運用は先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）を通じて行います。

■各資産について、以下の組入比率を目途に投資します。



(注) 金融業を除きます。

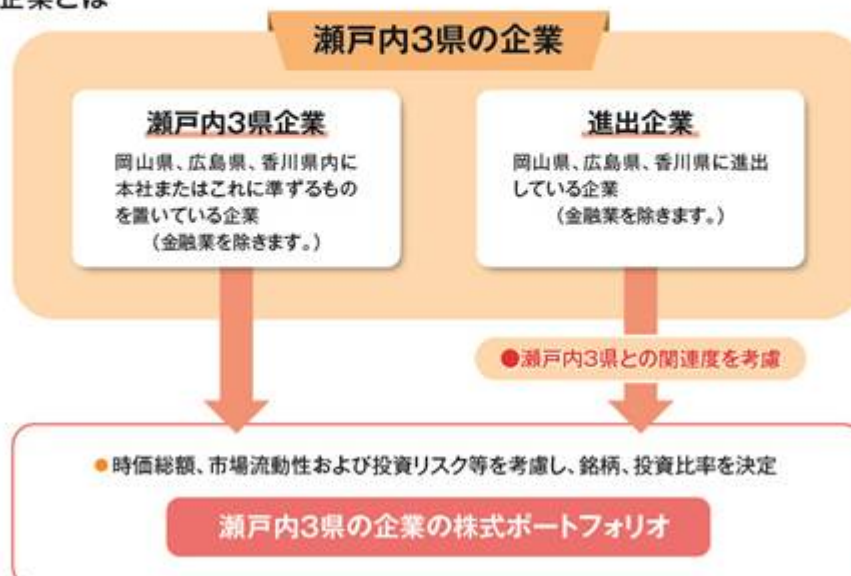
※上記はイメージであり、実際の組入比率とは異なります。

◆ 各資産の投資方針

① 瀬戸内3県の企業の株式

「瀬戸内3県の企業の株式」部分の運用にあたっては、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、瀬戸内3県の企業（金融業を除きます。）に投資します。

瀬戸内3県の企業とは



- ※「瀬戸内3県の企業の株式」部分の運用は瀬戸内3県株式マザーファンドを通じて行います。
当部分の運用について、くわしくは、後記の「（参考）ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要
瀬戸内3県株式マザーファンド」をご参照下さい。

② 先進国の株式

「先進国の株式」部分の運用にあたっては、日本を除く先進国の株式に投資します。

- MSCIコクサイESGリーダーズ指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
- MSCIコクサイESGリーダーズ指数（配当込み、円換算ベース）をベンチマークとします。

*ESGとは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字をとったものです。

原則として、為替ヘッジを行いません。

- ※「先進国の株式」部分の運用は先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）を通じて行います。
当部分の運用について、くわしくは、後記の「（参考）ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要
先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）」をご参照下さい。

「MSCIコクサイESGリーダーズ指数（配当込み、円換算ベース）」について

MSCIコクサイESGリーダーズ指数（配当込み、円換算ベース）とは、MSCI Inc.が開発したMSCIコクサイESGリーダーズ指数（米ドルベース）をもとに三菱UFJアセットマネジメント株式会社が計算したものです。MSCIコクサイESGリーダーズ指数（米ドルベース）は、MSCI ESGリサーチが提供する企業格付けと調査を利用し、日本を除く先進国の株式から、業種内において相対的にESG（環境、社会、ガバナンス）評価が優れた企業で構成されています。MSCIコクサイESGリーダーズ指数（米ドルベース）に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

「MSCIコクサイESGリーダーズ指数」について

■MSCIコクサイESGリーダーズ指数の構築プロセス



- ・年次レビュー（毎年5月）において適格ユニバースを更新し、各業種分類時価総額の50%を目標に一定の条件に従って銘柄を選定
- ・四半期レビュー（毎年2・8・11月）において、ESG適格基準の継続採用条件を満たしていない既存構成銘柄を除外した上で、各業種分類時価総額の45%未満となる場合、一定の条件に従って50%の目標に達するまで銘柄を新規採用

※MSCI ACWI ESGリーダーズ指数とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の主要先進国および新興国の大型株・中型株の中から、業種内において、相対的にESG評価が優れた企業で構成されています。

■ ESG適格基準

項目	内容	新規採用条件	継続採用条件
MSCI ESG格付け	- 各企業のESGに関するリスクと機会への対応力を調査・分析 - 各企業に係る主要な問題への対応力を同業他社と比較 - AAA～CCCの7段階で各企業を評価（BBは最上位から5番目）	BB以上	BB以上
不祥事スコア	各企業の事業、製品やサービスがESGにネガティブな影響を与え得る不祥事の深刻度やその解決のための対策を0～10で評価（0が最低評価）	3以上	1以上
ビジネス関与スクリーニング	- 非人道的兵器と関連性を有するすべての企業、核兵器に関する製造やサービスに関連するすべての企業を除外 - 民間銃器、たばこ、アルコール、通常兵器、ギャンブル、原子力、化石燃料抽出、石炭火力の製造、販売などに関連する事業から一定以上の売上や収益を得ている企業を除外		

■ MSCI ESG格付けの評価項目

● 環境 (Environment)

地球温暖化	自然資源	廃棄物管理	環境市場機会
二酸化炭素排出、環境配慮融資など	水資源枯渇、生物多様性と土地利用など	有害物質と廃棄物管理、包装材廃棄物など	クリーンテクノロジー、再生可能エネルギーなど

● 社会 (Social)

人的資源	製品サービスの安全	ステークホルダーマネジメント	社会市場機会
労働マネジメント、労働安全衛生など	製品安全・品質、製品化学物質安全など	透明性のある物資調達、コミュニティ関係	金融へのアクセス、ヘルスケアへのアクセスなど

● ガバナンス (Governance)

コーポレートガバナンス	企業行動
取締役会構成、報酬など	企業倫理、租税回避など

※産業により重要とされる項目が異なるため、全ての項目で評価するものではありません。

※ESG適格基準やMSCI ESG格付けの評価項目は、今後変更される可能性があります。

※MSCI Inc.の資料を基に中銀アセットマネジメントが作成

■指数の著作権等について

当ファンドは、MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者が、保証、推奨、販売、または宣伝するものではありません。MSCI指数は、MSCI Inc.が独占的に所有しています。

MSCI Inc.およびMSCI指数は、MSCI Inc.およびその関係会社のサービスマークであり、委託会社は特定の目的の為にその使用を許諾されています。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、当ファンドの受益者または不特定多数の公衆に対して、ファンド全般的またはこの特定のファンドへの投資に関する当否あるいは一般的な株式市場のパフォーマンスをトラックしているMSCI指数の能力に関して、明示的であると黙示的であるとを問わず、一切の表明または保証を行いません。MSCI Inc.とその関連会社は、特定のトレードマーク、サービスマーク、トレードネームのライセンスの所有者であり、MSCI指数は、当ファンドまたは当ファンドの委託会社あるいは受益者に関わらず、MSCI Inc.により決定、作成、および計算されています。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、MSCI指数の決定、作成、あるいは計算において、当ファンドの委託会社または受益者の要求を考慮にいれる義務は一切ありません。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、当ファンドの募集等に関する事項の決定について、また、当ファンドを換金するための計算式の決定または計算について責任を負うものではなく、参加もしていません。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、当ファンドの受益者に対し、当ファンドの管理、マーケティングまたは募集に関連するいかなる義務または責任も負いません。

MSCI Inc.は、自らが信頼できると考える情報源からMSCI指数の計算に算入される情報またはその計算に使用するための情報を入手しますが、MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、MSCI指数またはそれに含まれるいかなるデータの独創性、正確性および／または完全性について保証するものではありません。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、明示的にも黙示的にも、被許諾者、その顧客または相手方、当ファンドの委託会社、当ファンドの受益者その他の個人・法人が、契約にもとづき許諾される権利またはその他使用のために許諾される権利に関連してMSCI指数またはそれに含まれるデータを使用することにより得られる結果について保証を行うものではありません。MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、MSCI指数およびそれに含まれるデータの、またはそれに関連する過誤、省略または中断に対してまたはそれらに関して責任を負うことはありません。MSCI指数およびそれに含まれるデータに関し、MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、明示的、黙示的な保証を行うものでもなく、かつMSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、特定目的のための市場性または適切性について、何ら保証を行うものではないことを明記します。前記事項を制限することなく、たとえ直接的損害、間接的損害、特別損害、懲罰的損害、拡大的損害その他のあらゆる損害（逸失利益を含む。）につき、その可能性について知らせを受けていたとしても、MSCI Inc.、MSCI Inc.の関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者は、いかなる場合においてもかかる損害について責任を負いません。

当ファンドの購入者、販売者、または受益者あるいはいかなる個人・法人は、MSCI Inc.の許諾が必要かどうかの決定をあらかじめMSCI Inc.に問い合わせることなく、当ファンドを保証、推奨、売買、または宣伝するためにいかなるMSCI Inc.のトレードネーム、トレードマーク、またはサービスマークを使用または言及することはできません。いかなる場合においても、いかなる個人または法人は、事前にMSCI Inc.の書面による許諾を得ることなくMSCI Inc.との関係を一切主張することはできません。

（２）【ファンドの沿革】

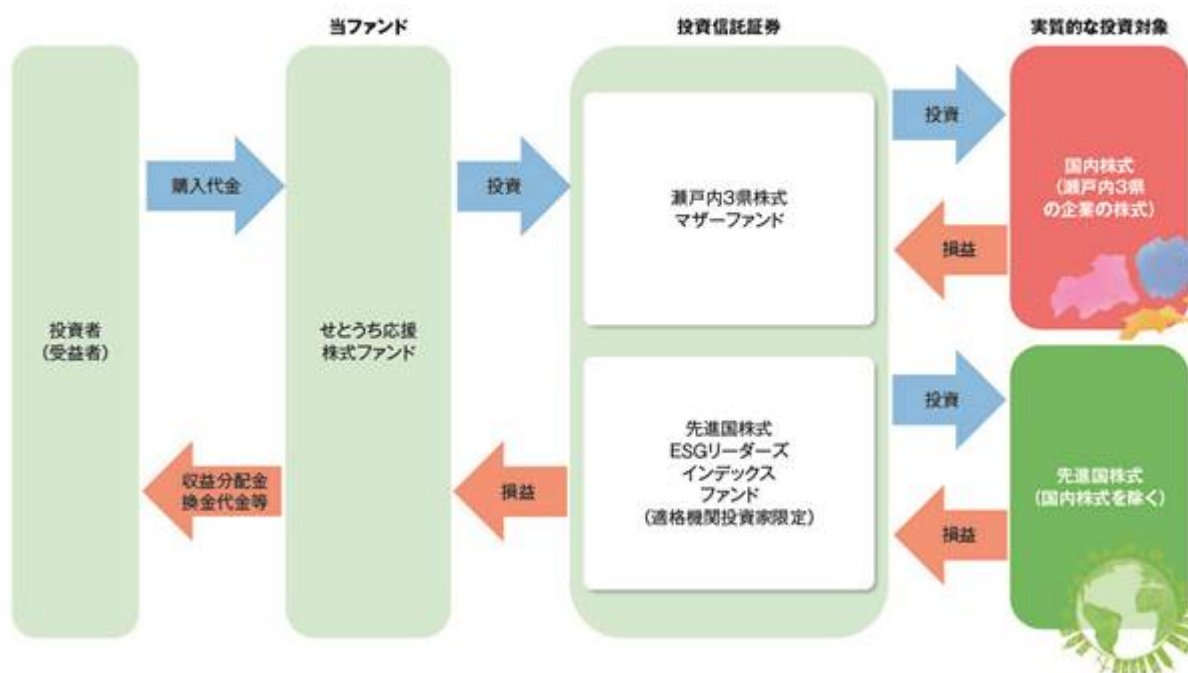
2022年12月16日 信託契約締結、設定、運用開始

（３）【ファンドの仕組み】

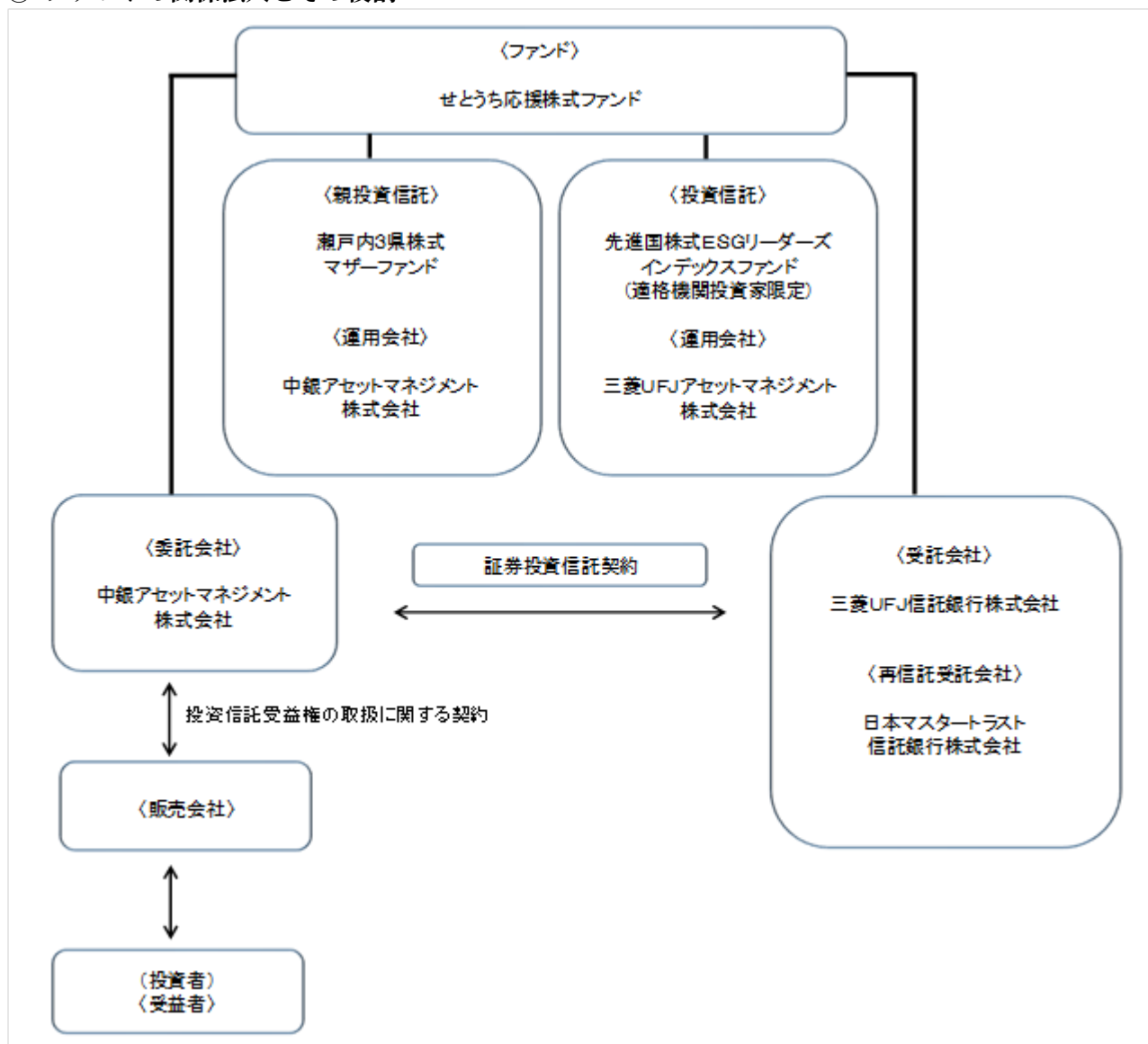
① ファンド・オブ・ファンズ方式

◆ ファンドの仕組み

運用は主に以下の投資信託証券への投資を通じて、瀬戸内3県の企業の株式および先進国の株式へ実質的に投資するファンド・オブ・ファンズ方式により行います。



② ファンドの関係法人とその役割



関係法人	役割
委託会社	中銀アセットマネジメント株式会社 信託契約に基づき、信託財産の運用指図、信託財産の計算（基準価額の計算）、収益分配金、償還金および解約金の支払い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の作成・交付等を行います。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算、委託会社の指図に基づく信託財産の処分等を行います。
再信託受託会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 受託会社との再信託契約に基づき、所定の事務を行います。
販売会社	委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱いに関する契約」に基づき、受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金および解約金の支払事務等を行います。

③ 委託会社が関係法人と締結している契約等の概要

イ. 受託会社との信託契約

受託会社とは、受益者の利殖に資する目的で、投資信託約款の通り信託契約を締結しております。

ロ. 販売会社との投資信託受益権の取扱に関する契約

委託会社は、販売会社に対し、次の業務を委託し、販売会社はこれを引き受けます。

- a. 受益権の募集・販売の取扱い
- b. 追加設定の申込受付事務
- c. 受益者に対する収益分配金の再投資事務
- d. 受益者に対する一部解約等の事務
- e. 受益者に対する受益権の買取
- f. 受益者に対する一部解約金および償還金・収益分配金の支払事務
- g. 受益者に対する運用報告書の交付
- h. その他前記の業務に付随する業務

販売会社によって引き受ける業務が異なる場合があります。

④ 委託会社の概況（2025年1月末現在）

イ. 名称

中銀アセットマネジメント株式会社

ロ. 本店の所在の場所

岡山県岡山市北区柳町2丁目11番23号

ハ. 資本金

1億2,000万円

ニ. 委託会社の沿革

1987年11月9日	「中銀投資顧問株式会社」設立(資本金5,000万円)
1988年2月12日	投資顧問業者登録（中国財務局長第7号）
1988年10月1日	増資の実施（新資本金1億2,000万円）
1989年12月18日	投資一任契約に係る業務の認可（大蔵大臣第142号）
2002年6月28日	商号を「中銀アセットマネジメント株式会社」に変更
2002年9月9日	運用コンサルタント業務・投資信託の評価情報提供業務の兼業承認（中国財務局長第310号）
2005年8月29日	外国為替運用業務兼業承認（中国財務局長第311号）
2007年9月30日	金融商品取引業者登録（中国財務局長第10号）
2011年12月21日	投資信託委託業務届出
2017年8月7日	第二種金融商品取引業登録
2022年10月3日	株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループによる完全子会社化

ホ. 大株主の状況

名 称	住 所	持株数	持株比率
株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ	岡山県岡山市北区丸の内1丁目15番20号	1,200株	100.00%

2【投資方針】

（1）【投資方針】

① 基本方針

この投資信託は、信託財産の成長を目指して運用を行います。

② 運用方法

イ. 投資対象

瀬戸内3県株式マザーファンドの受益証券および先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）の受益証券を主要投資対象とします。

ロ. 投資態度

- a. 主として、各投資対象ファンドの受益証券への投資を通じて瀬戸内3県の企業（金融業を除きます。）の株式および先進国の株式に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。
- b. 各投資対象ファンドの受益証券については、以下の組入比率を目途に投資を行います。
瀬戸内3県株式マザーファンドの受益証券…信託財産の純資産総額の50%
先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）の受益証券…信託財産の純資産総額の50%
- c. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
- d. 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

（２）【投資対象】

① 投資の対象とする資産の種類

この投資信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

イ. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- a. 有価証券
- b. 金銭債権
- c. 約束手形

② 運用の指図範囲

イ. 有価証券

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、運用方法で定める投資信託証券（投資信託および外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定めるものをいいます。））ならびに投資証券および外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。）をいいます。以下同じ。）のほか、次に掲げるものとします。なお、当該有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。

- a. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
- b. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- c. 外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券で、bの証券の性質を有するもの
- d. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定めるものをいい、振替受益権を含みます。）
- e. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。）
- f. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、aの証券を以下「公社債」といい、dおよびeの証券を以下「投資信託証券」といいます。公社債に係る運用の指図は短期社債等への投資ならびに買い現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付債券借入れ）に限り行うことができます。

ロ. 金融商品

委託会社は、信託金を、イに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- a. 預金
- b. 指定金銭信託（金融商品取引法第２条第１項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- c. コール・ローン
- d. 手形割引市場において売買される手形

ハ. 特別な場合の運用指図

イの規定にかかわらず、このファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記の金融商品により運用することの指図ができます。

（参考）ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

名称	瀬戸内3県株式マザーファンド
基本方針	この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式
投資態度	①主として、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、瀬戸内3県の企業（金融業を除きます。）に投資し、信託財産の成長を目指します。 ②瀬戸内3県の企業とは、岡山県、広島県、香川県内に本社またはこれに準ずるものを置いている企業（以下、「瀬戸内3県企業」といいます。）および瀬戸内3県に進出している企業（以下、「進出企業」といいます。）とします。 ③瀬戸内3県企業の株式への投資については、時価総額、市場流動性及び投資リスク等を考慮して銘柄選定を行い、投資比率を決定します。 ④進出企業の株式への投資については、時価総額、瀬戸内3県との関連度及び投資リスク等を考慮して銘柄選定を行い、投資比率を決定します。 ⑤株式の組入比率は通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ⑥ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。 ⑦株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。 ⑧運用の効率化を図るため、有価証券先物取引等を利用することがあります。 ⑨資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
信託期間	無期限
決算日	毎年7月21日（休業日の場合は翌営業日）
運用管理費用（信託報酬）	ありません ※売買委託手数料、監査費用、資産の保管等に要する費用等がかかる場合があります。
信託財産留保額	ありません
委託会社	中銀アセットマネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 （再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
主な投資制限	①株式への投資割合には、制限を設けません。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ③投資信託証券（上場投資信託証券等を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④外貨建資産への投資は行いません。 ⑤一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率が、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。 ⑥一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行いません。 ⑦デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
収益分配方針	分配は行いません。
購入時手数料	ありません

名称	先進国株式E S Gリーダーズインデックスファンド（適格機関投資家限定）
基本方針	この投資信託は、MSCIコクサイE S Gリーダーズ指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
主要投資対象	先進国株式E S Gインデックスマザーファンド（以下マザーファンドといいます。）の受益証券
投資態度	①先進国株式E S Gインデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除く先進国の株式に投資を行います。 ②マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 ③対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し株式の実質投資比率が100%を超える場合があります。 ④実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
マザーファンドの投資態度	①主として日本を除く先進国の株式に投資を行います。 ②株式の組入比率は高位を維持することを基本とします。 ③対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し株式の実質投資比率が100%を超える場合があります。 ④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
信託期間	2022年9月26日から2032年5月20日
決算日	毎年5月20日（休業日の場合は翌営業日）
運用管理費用（信託報酬）	純資産総額の年0.242%（年0.22%（税抜）） ※売買委託手数料、監査費用、資産の保管等に要する費用等がかかる場合があります。
信託財産留保額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額の0.1%
委託会社	三菱UFJアセットマネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 （再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資制限	①株式への実質投資割合に制限を設けません。 ②新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。 ③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ⑤外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。 ⑥有価証券先物取引等を行うことができます。 ⑦スワップ取引を行うことができます。 ⑧外国為替予約取引を行うことができます。 ⑨デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。 ⑩外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。
収益分配方針	毎計算期末に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

購入時手数料	ありません ※売買委託手数料、監査費用、資産の保管等に要する費用等がかかる場合があります。
--------	--

（３）【運用体制】

① 運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織

ファンドの運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織は、以下のようになります。



② ファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

「受託会社」または「再信託受託会社」に対しては、日々の基準価額および純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

※運用体制等につきましては、2025年1月末現在のものであり、変更になることがあります。

（４）【分配方針】

① 毎年12月15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

イ. 分配対象収益の範囲

経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

ロ. 分配対象収益についての分配方針

収益分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準、市況動向等を勘案のうえ決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合があります。

ハ. 留保益の運用方針

収益分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針と同一の運用を行います。

※分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市場動向等により変更する場合があります。）

※将来の分配金の支払およびその金額について保証するものではありません。

② 収益分配金の交付

イ. 分配金受取コースの場合、収益分配金は、決算日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて支払いを開始します。

ロ. 分配金再投資コースの場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で全額を申込手数料なしで再投資いたします。

※お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

分配方針に基づいて収益分配を行う予定ですが、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

（５）【投資制限】

- ① 株式への直接投資は行いません。
- ② 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ③ 外貨建資産への直接投資は行いません。
- ④ 同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ⑤ 投資信託証券を通じて行う場合において、デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
- ⑥ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

⑦ 資金の借入

イ. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

ロ. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。

ハ. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は、収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ. 借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

3【投資リスク】

当ファンドは、実質的に国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではありません。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者のみなさまに帰属します。

① 投資リスク

イ. 株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。

当ファンドが実質的に投資する株式の価格が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

ロ. 為替変動リスク

外貨建資産については、当該外貨の円に対する為替相場の影響を受け変動します。

当ファンドが実質的に保有する外貨建資産について、当該外貨の為替相場が円安方向に進んだ場合には当ファンドの基準価額が上昇する要因となり、円高方向に進んだ場合には下落する要因となります。

ハ. 信用リスク（デフォルトリスク）

有価証券等の価格は、その発行体の倒産、財務状況又は信用状況の悪化、債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。

当ファンドが実質的に保有する有価証券等の発行体にこうした状況が発生または予想される場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

ニ. 流動性リスク

大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金のお申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

② 留意事項

- イ. 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ロ. 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、販売会社が登録金融機関の場合、証券会社とは異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- ハ. 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ニ. 取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することや、すでに受付けた解約請求の受付を取消することがあります。

③ 投資リスクに対する管理体制

- イ. 投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行います。
- ロ. コンプライアンス部は、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程および投資信託約款等（以下、「法令諸規則等」という。）に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認します。
- ハ. 運用評価委員会においてファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行います。
- ニ. 流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

〈参考情報〉

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※分配金再投資基準価額は、2022年12月末から2025年1月末です。

※年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、税引前の分配金を再投資したものと仮定して計算したものであり、実際の基準価額をもとに計算したものと異なる場合があります。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものと仮定して計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しております。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しております。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※上記期間（当ファンドは2023年12月から2025年1月）の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

※上記資産クラスの騰落率は2025年1月から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●代表的な資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出・公表する、日本の株式を対象とした指数で、配当を考慮したものです。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。
日本国債	NOMURA-BPI国債 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCが開発した指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) J.P. Morgan Securities LLCが算出・公表する指数で、世界の新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額）に、販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

有価証券届出書提出日現在の手数料率の上限は、3.3%（税抜3.0%）です。手数料率は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にご確認ください。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合、申込手数料はかかりません。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。販売会社につきましては、委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

（２）【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

（３）【信託報酬等】

① 信託報酬の総額およびその配分

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率1.133%（税抜1.03%）を乗じて得た額とします。

1万口当たりの信託報酬：

運用期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数／365)

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

信託報酬は、「委託会社」、「販売会社」および「受託会社」の間で次のように配分します。

支払先	配分（税抜）	役務の内容
委託会社	0.50%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
販売会社	0.50%	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
受託会社	0.03%	信託財産の保管・管理、運用指図の実行の対価

※上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

前記の他に投資対象とする投資信託証券に関しても信託（管理）報酬等がかかります。投資対象ファンドの純資産総額に対して、年率0.121%程度（税抜0.11%程度）とします。

受益者が負担する実質的な信託報酬率は、ファンドの純資産総額に対して、年率1.254%程度（税抜1.14%程度）とします。

※上記は、ファンドの信託報酬率と、投資対象とする投資信託証券の信託報酬率を合わせたものです。この値はあくまでも目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入状況により変動します。

② 信託報酬の支払い時期

毎計算期間の最初の６ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

（４）【その他の手数料等】

- ① 信託財産留保額はありません。
- ② その他の費用・手数料として、投資者のみなさまの保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。
 - ・ 監査法人に支払われるファンドの監査費用
 - ・ 有価証券等の売買時の売買委託手数料
 - ・ 信託事務の処理に要する諸費用 等

※監査費用は、日々のファンドの純資産総額に対して、年率0.0055%（税抜0.005%）を乗じた額をその費用の合計額とみなして、実際の費用に関わらずファンドからご負担いただきます。（監査費用とは、監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用です。）

※投資対象とする投資信託証券においては、上記以外にもその他の費用・手数料・監査費用・信託財産留保額等が別途かかる場合があります。

※上記の費用・手数料等については、売買条件等により異なるため、当ファンドにかかる監査費用の料率を除き、事前に金額または上限額等を記載することができません。

費用または費用を対価とする役務の内容について

費用名	直接・間接※	説明
申込手数料	直接	商品および投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等の対価
信託財産留保額	直接	信託期間の途中で換金する場合に、換金に必要な費用を賄うため換金代金から控除され、信託財産中に留保される額
信託報酬	間接	（委託会社） ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 （販売会社） 分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価 （受託会社） 信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
売買委託手数料	間接	有価証券等を売買する際に発生する費用
監査報酬	間接	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用

上記は一般的な用語について説明したものです。

※受益者が直接的に負担する費用か、間接的に負担する費用かの区別です。

（５）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

① 個人受益者に対する課税

イ. 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

ロ. 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。なお、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、上場株式等に係る譲渡益との損益通算が可能です。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。

当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

② 法人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。

※収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、基準価額（分配落）が受益者の個別元本と同額の場合または上回っている場合には、分配金の全額が普通分配金となります。

受益者が収益分配金を受け取る際、基準価額（分配落）が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。元本払戻金（特別分配金）は、元本の一部払戻しに相当し、非課税扱いとなります。

※個別元本とは

個別元本とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均されます。ただし、複数の販売会社でファンドを買付けた場合は、販売会社毎に個別元本の算出が行われます。

また、同一販売会社であっても、複数口座でファンドを買付けた場合には口座ごとに、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースでファンドを買付けた場合にはコースごとに、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が、元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、個別元本は、分配金発生時の個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額となります。

③ その他

イ. 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。（税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めいたします。）

ロ. 買取請求による換金の場合の課税上の取扱いおよび損益通算等につきましては、取得申込を取り扱った販売会社にお問い合わせください。

ハ. 受益者が、確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税、復興特別所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記の内容は2025年1月末現在の税法および確定拠出年金法に基づくものであり、税法または確定拠出年金法が改正された場合等には変更になることがあります。

◆ (参考情報) ファンドの総経費率

総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
1.35%	1.13%	0.21%

※対象期間は2023年12月16日～2024年12月16日です。

※対象期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税は含みません。）を対象期間の平均受益権口数に平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）です。

※投資対象とする投資信託証券（以下、投資先ファンドといいます。）にかかる費用は、その他費用の比率（②）に含めています。

※投資先ファンドを含め入手し得る情報において計算に含まれていない費用は認識しておりません。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

※費用の詳細につきましては、対象期間の運用報告書（全体版）をご覧ください。

5【運用状況】

（１）【投資状況】

2025年1月31日現在

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	1,476,750,011	49.31
親投資信託受益証券	日本	1,496,649,121	49.98
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	－	21,231,675	0.71
合計(純資産総額)		2,994,630,807	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

イ．評価額上位銘柄明細

2025年1月31日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	瀬戸内3県株式マザーファンド	1,020,906,631	1.4549	1,485,317,058	1.4660	1,496,649,121	49.98
日本	投資信託 受益証券	先進国株式E S Gリーダーズインデックス ファンド（適格機関投資家限定）	885,129,472	1.6705	1,478,618,519	1.6684	1,476,750,011	49.31

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

ロ．種類別投資比率

2025年1月31日現在

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	49.31
親投資信託受益証券	49.98
合計	99.29

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

① 【純資産の推移】

2025年1月31日及び同日1年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額（円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1計算期間末（2023年12月15日）	2,734,405,289	2,734,405,289	1.2438	1.2438
第2計算期間末（2024年12月16日）	3,010,981,953	3,010,981,953	1.5189	1.5189
2024年1月末日	2,760,018,246	—	1.3483	—
2月末日	2,938,381,663	—	1.4087	—
3月末日	2,955,796,916	—	1.4722	—
4月末日	2,973,423,702	—	1.4707	—
5月末日	3,010,325,364	—	1.4769	—
6月末日	3,078,420,201	—	1.5297	—
7月末日	3,040,347,511	—	1.4744	—
8月末日	2,923,823,364	—	1.4344	—
9月末日	2,923,984,176	—	1.4476	—
10月末日	2,925,192,439	—	1.5039	—
11月末日	2,955,760,013	—	1.4900	—
12月末日	3,072,011,040	—	1.5409	—
2025年1月末日	2,994,630,807	—	1.5216	—

② 【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金（円）
第1計算期間末	2022年12月16日～2023年12月15日	0.0000
第2計算期間末	2023年12月16日～2024年12月16日	0.0000

③ 【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第1計算期間末	2022年12月16日～2023年12月15日	24.4
第2計算期間末	2023年12月16日～2024年12月16日	22.1

(注) 「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前期末基準価額」）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。なお、第1計算期間については、直前の計算期間の基準価額を10,000円として計算しています。

（４）【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
第１計算期間末	2022年12月16日～2023年12月15日	2,738,848,792	540,350,362	2,198,498,430
第２計算期間末	2023年12月16日～2024年12月16日	615,557,376	831,687,875	1,982,367,931

（注）第１計算期間の設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

(参考)

瀬戸内３県株式マザーファンド

(１) 投資状況

2025年１月31日現在

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
株式	日本	3,924,482,730	96.62
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	—	137,459,570	3.38
合計(純資産総額)		4,061,942,300	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(２) 投資資産

①投資有価証券の主要銘柄

イ．評価額上位銘柄明細

2025年１月31日現在

順位	国／地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	I H I	機械	6,900	5,644.89	38,949,752	9,375.00	64,687,500	1.59
2	日本	株式	三井E&S	機械	35,100	1,434.71	50,358,649	1,588.00	55,738,800	1.37
3	日本	株式	三菱重工業	機械	23,900	1,888.50	45,135,166	2,296.00	54,874,400	1.35
4	日本	株式	川崎重工業	輸送用機器	7,500	6,043.45	45,325,902	7,066.00	52,995,000	1.30
5	日本	株式	日本郵政	サービス業	31,200	1,535.31	47,901,804	1,626.00	50,731,200	1.25
6	日本	株式	積水化学工業	化学	19,600	2,294.05	44,963,450	2,579.00	50,548,400	1.24
7	日本	株式	エクセディ	輸送用機器	10,300	3,129.77	32,236,669	4,815.00	49,594,500	1.22
8	日本	株式	日東電工	化学	17,800	2,622.53	46,681,091	2,768.00	49,270,400	1.21
9	日本	株式	ディスコ	機械	1,100	45,937.33	50,531,069	44,740.00	49,214,000	1.21
10	日本	株式	パナソニック ホールディングス	電気機器	30,800	1,286.74	39,631,695	1,597.00	49,187,600	1.21
11	日本	株式	住友電気工業	非鉄金属	16,800	2,377.48	39,941,732	2,912.50	48,930,000	1.20
12	日本	株式	ENEOSホールディングス	石油・石炭製品	60,500	792.37	47,938,762	787.10	47,619,550	1.17
13	日本	株式	三菱瓦斯化学	化学	17,300	2,875.29	49,742,637	2,724.50	47,133,850	1.16
14	日本	株式	大和ハウス工業	建設業	9,600	4,303.70	41,315,529	4,898.00	47,020,800	1.16
15	日本	株式	西日本旅客鉄道	陸運業	16,400	2,877.57	47,192,229	2,863.00	46,953,200	1.16
16	日本	株式	三井金属鉱業	非鉄金属	10,100	5,107.13	51,582,057	4,608.00	46,540,800	1.15
17	日本	株式	住友ゴム工業	ゴム製品	25,600	1,575.77	40,339,963	1,816.00	46,489,600	1.14
18	日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	303,500	157.27	47,733,954	152.70	46,344,450	1.14
19	日本	株式	旭化成	化学	43,900	1,044.89	45,870,737	1,055.50	46,336,450	1.14
20	日本	株式	三菱電機	電気機器	18,000	2,620.45	47,168,235	2,571.50	46,287,000	1.14
21	日本	株式	ミライト・ワン	建設業	20,000	2,094.40	41,888,165	2,310.50	46,210,000	1.14
22	日本	株式	神戸製鋼所	鉄鋼	27,800	1,808.63	50,280,139	1,659.00	46,120,200	1.14
23	日本	株式	ダイヘン	電気機器	6,400	7,355.72	47,076,648	7,130.00	45,632,000	1.12

24	日本	株式	日本製鋼所	機械	8,200	4,503.56	36,929,258	5,522.00	45,280,400	1.11
25	日本	株式	ジェイテクト	機械	36,700	1,091.86	40,071,403	1,224.00	44,920,800	1.11
26	日本	株式	カナデビア	機械	41,700	1,105.11	46,083,470	1,072.00	44,702,400	1.10
27	日本	株式	ダイセル	化学	32,000	1,427.99	45,695,815	1,378.00	44,096,000	1.09
28	日本	株式	東和薬品	医薬品	14,600	3,009.26	43,935,316	3,015.00	44,019,000	1.08
29	日本	株式	横浜ゴム	ゴム製品	12,500	3,261.69	40,771,145	3,508.00	43,850,000	1.08
30	日本	株式	日本たばこ産業	食料品	11,000	4,362.97	47,992,709	3,973.00	43,703,000	1.08

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

ロ．種類別及び業種別の投資比率

2025年1月31日現在

種類	国内／外国	業種	投資比率（％）
株式	国内	建設業	4.48
		食料品	9.09
		繊維製品	2.83
		パルプ・紙	0.02
		化学	13.69
		医薬品	2.15
		石油・石炭製品	1.17
		ゴム製品	3.63
		ガラス・土石製品	0.85
		鉄鋼	2.08
		非鉄金属	4.88
		金属製品	0.01
		機械	14.24
		電気機器	9.95
		輸送用機器	6.28
		精密機器	0.40
		その他製品	2.26
		電気・ガス業	1.59
		陸運業	2.79
		情報・通信業	1.16
		卸売業	3.42
		小売業	6.63
		不動産業	0.41
		サービス業	2.61
合計			96.62

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。各比率は四捨五入により表示しておりますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。

②投資不動産物件

該当事項はありません。

③その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

〈参考情報〉

2025年1月31日現在

基準価額・純資産の推移



※基準価額は1万口当たり、信託報酬等を控除後の値です。

※2025年1月31日時点では分配がありませんので、分配金再投資基準価額は表示していません。

分配の推移

2023年 12月	0円
2024年 12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。

主要な資産の状況

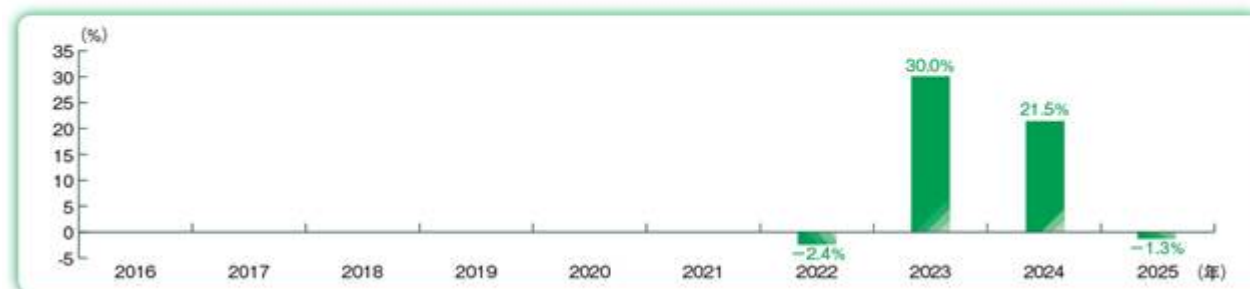
資産構成	比率
瀬戸内3県株式マザーファンド	50.0%
先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)	49.3%
コール・ローン、その他	0.7%
合計	100.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※主要な資産の状況の各組入比率は四捨五入して表示しておりますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。

※コール・ローン、その他には未収・未払い項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

年間収益率の推移



※当ファンドにはベンチマークはありません。

※当ファンドの収益率は基準価額で計算しております。

※2022年は当ファンド設定日から年末までの収益率を表示しております。

※2025年の収益率は年初から2025年1月31日までの収益率を表示しております。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）申込方法

- ① お申込みに際しては、販売会社所定の方法でお申込みください。
- ② 当ファンドは、収益の分配が行われた場合に収益分配金を受領する「分配金受取コース」と、収益分配金を申込手数料なしで再投資する「分配金再投資コース」がありますが、お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。「分配金再投資コース」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で「累積投資に関する契約」にしたがって分配金再投資に関する契約を締結します。なお、販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合当該別の名称に読み替えるものとします。また、あらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。
- ③ 当ファンドのお申込みは、原則として販売会社の毎営業日に行われます。お申込みの受付は、原則として午後3時30分までにお申込みが行われ、かつ、お申込みの受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
- ④ 次のいずれかに該当する日（以下「申込不可日」といいます。）には、取得のお申込みはできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）
 - ・ニューヨーク証券取引所の休業日
 - ・ロンドン証券取引所の休業日
- ⑤ 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、お申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けたお申込みの受付を取り消すことができるものとします。

※受益権の取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

（２）申込価額

- ① お申込価額（発行価格）は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額[※]とします。

「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

※「基準価額」とは、純資産総額（ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額）を計算日の受益権総口数で除した価額をいいます。なお、基準価額は、便宜上１万口当たりで表示することがあります。

- ② 申込代金は、１口当たりのお申込価額に申込口数を乗じて得た金額とします。

（３）申込手数料

申込手数料は、申込金額に販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額です。

有価証券届出書提出日現在の手数料率の上限は、3.3%（税抜3.0%）です。手数料率は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。なお、「分配金再投資コース」の取得申込者が、「累積投資に関する契約」（販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合当該別の名称に読み替えるものとします。）に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、申込手数料はかかりません。

（４）申込単位

お申込単位は、販売会社が定める単位とします。

「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」によるお申込みが可能です。

お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。

確定拠出年金制度をご利用の場合のお申込みは１円以上１円単位です。（「分配金再投資コース」でのお申込みとなります。）

※取扱いコースおよびお申込単位は、販売会社にお問い合わせください。

※「分配金再投資コース」により、収益分配金を再投資する場合は、１口単位となります。

（５）払込期日

取得申込者は、お申込みをされた販売会社が定める所定の日時までに買付代金を販売会社に支払うものとし、各取得申込日の発行価額の総額は、販売会社によって、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して受託会社の指定するファンド口座（受託会社が信託事務の一部について委託を行っている場合は当該委託先の口座）に払い込まれます。

（６）照会先

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

＜受付時間＞ 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

2【換金（解約）手続等】

（1）換金（解約）手続き

- ① 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、各販売会社の定める単位をもって換金（解約）の請求をすることができます。受益者が換金の請求をするときは、販売会社に対し、受益権をもって行うものとします。委託会社は、換金の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。換金のお申込みの受付は、原則として販売会社の毎営業日の午後3時30分までに換金の請求が行われ、かつ、換金の受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

※換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

- ② 申込不可日には、換金の請求はできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）
- ③ 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、換金の受付を中止すること、およびすでに受付けた換金の請求を取り消すことができます。換金の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金の請求を撤回できます。ただし、受益者がその換金の請求を撤回しない場合には、当該受益権の解約価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金の請求を受付けたものとします。

（2）換金価額

換金価額は、換金請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

（3）換金手数料

換金手数料はありません。

（4）換金代金の支払い

換金代金は、原則として換金請求受付日より起算して7営業日目から販売会社において支払います。

（５）照会先

換金価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

＜受付時間＞ 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

3【資産管理等の概要】

（１）【資産の評価】

① 基準価額の計算方法

基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下、「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。なお、基準価額は、便宜上１万口当たりで表示されることがあります。

② ファンドの主な投資対象の評価方法

ファンドが主要投資対象とする投資信託証券は、原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

③ 公社債等の評価

原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、第一種金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。

④ 基準価額の算出頻度

委託会社の毎営業日において計算されます。

⑤ 基準価額に関する照会方法等

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

＜受付時間＞ 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

基準価額は、計算日の翌日付の日本経済新聞に１万口当たりで掲載されます。掲載に関する権利は株式会社日本経済新聞社にあり、掲載されない場合もあります。また、基準価額は、掲載後変更される場合がありますので、販売会社または委託会社で確認してください。

委託会社の略称：中銀アセット

当ファンドの略称：せとうち応援

（２）【保管】

該当事項はありません。

（３）【信託期間】

信託期間は、2022年12月16日から無期限とします。ただし、信託契約の解約（繰上償還）の規定により信託を終了させる場合があります。

（４）【計算期間】

計算期間は、原則として、毎年12月16日から翌年12月15日までとします。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

（５）【その他】

① 信託契約の解約（繰上償還）

- イ. 委託会社は、信託期間中において、この信託を終了させることが受益者のため有利であると認めるとき、信託契約の一部を解約することにより受益権口数が５億口を下回ったとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
 - ロ. 委託会社は、イの事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の２週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
 - ハ. ロの書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ニ. ロの書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の３分の２以上にあたる多数をもって行います。

ホ. ロからニまでの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であってロからニまでの手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

② 信託契約に関する監督官庁の命令

- イ. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- ロ. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、信託約款の変更等の規定に従います。

③ 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

- イ. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- ロ. イの規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、信託約款の変更等の書面決議で否決された場合を除き、当該他の投資信託委託会社と受託会社の間において存続します。

④ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- イ. 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- ロ. 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

⑤ 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- イ. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申し立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の変更等の規定に従い、新受託会社を選任します。なお、受益者は、前記によって行う場合を除き、受託会社を解任することとはできないものとします。
- ロ. 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

⑥ 信託約款の変更等

- イ. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は、この信託約款の変更等に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- ロ. 委託会社は、イの事項（イの変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、イの併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
- ハ. ロの書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にファンドの受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

ニ. ロの書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。

ホ. 書面決議の効力は、ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

ヘ. ロからホまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

ト. イからヘまでの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

⑦ 反対受益者の受益権買取請求の不適用

ファンドは、受益者が一部解約の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、投信託契約の解約（繰上償還）または重大な信託約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

⑧ 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、「他の受益者の氏名または名称および住所」、「他の受益者が有する受益権の内容」の開示の請求を行うことはできません。

⑨ 運用報告書の交付

委託会社は、毎計算期間（原則として、毎年12月16日から翌年12月15日までとします。）終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知れている受益者に、販売会社を通じて交付します。

運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の請求があった場合には、これを交付します。

<https://www.chugin-am.jp/>

⑩ 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.chugin-am.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑪ 信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することができます。この場合、日本マスタートラスト信託銀行株式会社は、再信託契約に基づいて所定の事務を行います。

⑫ 関係法人との契約の更改等に関する手続等

イ. 販売会社との契約更改

委託会社は、販売会社との間の「投資信託受益権の取扱いに関する契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）」に基づき、受益権の募集の取扱い等を販売会社に委託しています。

この契約の有効期間は、契約締結日から1年で、期間満了の3ヵ月前までに委託会社または販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に1年間更新され、その後も同様とします。

ロ. 変更内容の開示

販売会社との契約または信託約款を変更した場合において、委託会社に変更内容について速やかに開示する必要があると認めるときは、有価証券届出書の訂正届出書を関東財務局長に提出することにより、変更内容を開示します。

4【受益者の権利等】

（１）ファンドの受益権

受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

（２）収益分配金に対する請求権

- ① 受益者は、ファンドに係る収益分配金を持分にに応じて請求する権利を有します。
- ② 収益分配金は、計算期間終了日から起算して、原則として、５営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。
- ③ ②の規定にかかわらず、累積投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。販売会社は、受益者に対し、計算期間終了日の基準価額をもって収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。
- ④ 受益者が、収益分配金について支払い開始日から５年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。
- ⑤ 収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

（３）償還金に対する請求権

- ① 受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。
- ② 償還金は、償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して、原則として、５営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。
- ③ 受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。
- ④ 償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。

（４）換金に係る権利

受益者は、委託会社に対して、換金（解約）請求を行う権利を有します。

（５）書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対して、当該受益者に係る信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- （1）当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- （2）当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2期計算期間（2023年12月16日から2024年12月16日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 【財務諸表】
 【せとうち応援株式ファンド】
 (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第 1 期 2023年12月15日現在	第 2 期 2024年12月16日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	80,507,929	65,937,379
投資信託受益証券	1,360,352,460	1,490,236,410
親投資信託受益証券	1,330,254,882	1,482,414,660
未収利息	—	198
流動資産合計	2,771,115,271	3,038,588,647
資産合計	2,771,115,271	3,038,588,647
負債の部		
流動負債		
未払解約金	22,556,546	10,788,880
未払受託者報酬	410,243	487,477
未払委託者報酬	13,674,668	16,249,157
未払利息	220	—
その他未払費用	68,305	81,180
流動負債合計	36,709,982	27,606,694
負債合計	36,709,982	27,606,694
純資産の部		
元本等		
元本	2,198,498,430	1,982,367,931
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	535,906,859	1,028,614,022
（分配準備積立金）	359,166,992	681,645,157
元本等合計	2,734,405,289	3,010,981,953
純資産合計	2,734,405,289	3,010,981,953
負債純資産合計	2,771,115,271	3,038,588,647

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 1 期 自 2022年12月16日 至 2023年12月15日	第 2 期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日
営業収益		
受取配当金	6,914,891	18,430,027
受取利息	—	26,825
有価証券売買等損益	443,607,342	571,043,728
営業収益合計	450,522,233	589,500,580
営業費用		
支払利息	80,491	23,904
受託者報酬	680,231	965,478
委託者報酬	22,674,139	32,182,635
その他費用	113,239	160,790
営業費用合計	23,548,100	33,332,807
営業利益又は営業損失（△）	426,974,133	556,167,773
経常利益又は経常損失（△）	426,974,133	556,167,773
当期純利益又は当期純損失（△）	426,974,133	556,167,773
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	67,807,141	113,581,238
期首剰余金又は期首欠損金（△）	—	535,906,859
剰余金増加額又は欠損金減少額	192,246,655	267,456,864
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	192,246,655	267,456,864
剰余金減少額又は欠損金増加額	15,506,788	217,336,236
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	15,506,788	217,336,236
分配金	—	—
期末剰余金又は期末欠損金（△）	535,906,859	1,028,614,022

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第2期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価に当たっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 (2) 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価に当たっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日の基準価額を採用した日に確定配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要事項	2024年12月15日が休日のため、当計算期間末日を2024年12月16日としております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期 2023年12月15日現在	第2期 2024年12月16日現在
1. 受益権の総数	2,198,498,430口	1,982,367,931口
2. 1単位当たりの純資産の額		
1口当たり純資産額	1.2438円	1.5189円
(10,000口当たりの純資産額)	(12,438円)	(15,189円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第 1 期 自 2022年12月16日 至 2023年12月15日		
1. 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	29,934,212 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	329,232,780 円
収益調整金額	C	176,739,867 円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	535,906,859 円
当ファンドの期末残存口数	F	2,198,498,430 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	2,437 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

第 2 期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日		
1. 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	50,025,385 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	392,561,150 円
収益調整金額	C	346,968,865 円
分配準備積立金額	D	239,058,622 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	1,028,614,022 円
当ファンドの期末残存口数	F	1,982,367,931 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	5,188 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

（金融商品に関する注記）

I. 金融商品の状況に関する事項

項目	第2期 自 2023年12月16日 至 2024年12月16日
1. 金融商品に対する 取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び リスク	当ファンドは、親投資信託受益証券および投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、株価変動リスク、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。その他、保有する金銭信託等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。
3. 金融商品に係るリスク 管理体制	当ファンドの委託会社の投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行っております。運用部門から独立した組織であるコンプライアンス部において、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行っております。また、運用評価委員会において、ファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価等により、全社的に投資リスクを把握し、管理を行っております。 当ファンドの委託会社では流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行っております。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督を行っております。

Ⅱ. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第 2 期 2024年12月16日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2) 親投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (3) その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	第 1 期 2023年12月15日現在	第 2 期 2024年12月16日現在
投資信託受益証券	229,197,608円	343,514,707円
親投資信託受益証券	197,165,115円	165,114,310円
合 計	426,362,723円	508,629,017円

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

元本の移動

項目	第 1 期 2023年12月15日現在	第 2 期 2024年12月16日現在
信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,203,155,563円	2,198,498,430円
期中追加設定元本額	1,535,693,229円	615,557,376円
期中一部解約元本額	540,350,362円	831,687,875円

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

＜株式以外の有価証券＞

(単位：円)

種 類	通貨	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	先進国株式 E S G リーダーズインデックス ファンド（適格機関投資家限定）	892,090,039	1,490,236,410	
投資信託受益証券 合計			892,090,039	1,490,236,410	
親投資信託 受益証券	日本円	瀬戸内 3 県株式マザーファンド	1,018,841,691	1,482,414,660	
親投資信託受益証券 合計			1,018,841,691	1,482,414,660	
合計 2 銘柄			1,910,931,730	2,972,651,070	

(注) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

<参考>

当ファンドは、「瀬戸内3県株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は当該マザーファンドの受益証券です。

瀬戸内3県株式マザーファンドの経理状況

マザーファンドの経理状況は参考情報であり、監査証明の対象ではありません。

財務諸表

瀬戸内3県株式マザーファンド

(1) 貸借対照表

(単位:円)

区分	2023年12月15日現在	2024年12月16日現在
	金額	金額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	60,652,842	141,510,413
株式	1,894,017,000	3,635,182,020
未収配当金	716,300	1,186,900
未収利息	—	426
流動資産合計	1,955,386,142	3,777,879,759
資産合計	1,955,386,142	3,777,879,759
負債の部		
流動負債		
未払金	—	47,458,978
未払利息	166	—
流動負債合計	166	47,458,978
負債合計	166	47,458,978
純資産の部		
元本等		
元本	1,543,801,224	2,563,824,549
剰余金		
剰余金又は欠損金（△）	411,584,752	1,166,596,232
元本等合計	1,955,385,976	3,730,420,781
純資産合計	1,955,385,976	3,730,420,781
負債純資産合計	1,955,386,142	3,777,879,759

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2023年12月16日 至 2024年12月16日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価に当たっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年12月15日現在	2024年12月16日現在
1. 受益権の総数	1,543,801,224口	2,563,824,549口
2. 1単位当たりの純資産の額		
1口当たり純資産額	1.2666円	1.4550円
(10,000口当たりの純資産額)	(12,666円)	(14,550円)

（金融商品に関する注記）

I. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2023年12月16日 至 2024年12月16日
1. 金融商品に対する 取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び リスク	当ファンドは、主として、国内株式を売買目的で保有しており、株価変動リスク、信用リスク等を有しております。その他、保有するコールローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。
3. 金融商品に係るリスク 管理体制	当ファンドの委託会社の投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行っております。運用部門から独立した組織であるコンプライアンス部において、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行っております。また、運用評価委員会において、ファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価等により、全社的に投資リスクを把握し、管理を行っております。 当ファンドの委託会社では流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行っております。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督を行っております。

II. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2024年12月16日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2) その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	2023年12月15日現在	2024年12月16日現在
株式	54,336,316円	△111,531,066円
合 計	54,336,316円	△111,531,066円

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

元本の移動

項目	2023年12月15日現在	2024年12月16日現在
信託財産に係る元本の状況		
期首	2022年12月16日	2023年12月16日
期首元本額	497,994,381円	1,543,801,224円
期中追加設定元本額	1,102,215,858円	1,202,989,221円
期中一部解約元本額	56,409,015円	182,965,896円
期末元本額	1,543,801,224円	2,563,824,549円
元本の内訳（＊）		
せとうち応援株式ファンド	1,050,256,500円	1,018,841,691円
瀬戸内3県株式ファンド （適格機関投資家専用）	493,544,724円	1,544,982,858円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

(3) 附属明細表

1. 有価証券明細表

<株式>

種類	通貨	銘 柄	株数 (株)	評価額		備考
				単価(円)	金額(円)	
株式	日本円	ウエストホールディングス	5,100	1,655.00	8,440,500	
		ミライト・ワン	18,500	2,256.00	41,736,000	
		ビーアールホールディングス	42,000	335.00	14,070,000	
		大本組	3,600	2,092.00	7,531,200	
		大和ハウス工業	9,000	4,750.00	42,750,000	
		四電工	18,100	1,533.00	27,747,300	
		中電工	7,300	3,340.00	24,382,000	
		山崎製パン	12,700	3,004.00	38,150,800	
		カルビー	13,300	3,263.00	43,397,900	
		ヤクルト本社	11,700	3,075.00	35,977,500	
		明治ホールディングス	12,200	3,209.00	39,149,800	
		アサヒグループホールディングス	22,600	1,660.00	37,516,000	
		キリンホールディングス	18,900	2,100.00	39,690,000	
		やまみ	8,600	3,990.00	34,314,000	
		アヲハタ	4,900	2,539.00	12,441,100	
		日清食品ホールディングス	10,300	3,879.00	39,953,700	
		あじかん	500	1,239.00	619,500	
		日本たばこ産業	10,400	4,170.00	43,368,000	
		倉敷紡績	5,700	5,410.00	30,837,000	
		帝人	25,900	1,312.00	33,980,800	
		自重堂	1,700	9,000.00	15,300,000	
		マツオカコーポレーション	12,600	1,974.00	24,872,400	
		岡山製紙	500	1,222.00	611,000	
		クラレ	13,500	2,283.00	30,820,500	
		旭化成	39,400	1,075.00	42,355,000	
		四国化成ホールディングス	10,700	2,114.00	22,619,800	
		戸田工業	9,600	1,182.00	11,347,200	
		三菱瓦斯化学	16,300	2,693.00	43,895,900	
		三菱ケミカルグループ	45,200	778.80	35,201,760	
		ダイセル	29,600	1,370.00	40,552,000	
		積水化学工業	18,600	2,379.00	44,249,400	
		大倉工業	8,900	3,000.00	26,700,000	
		ダイキョーニシカワ	26,900	609.00	16,382,100	
		日本ペイントホールディングス	35,800	1,059.00	37,912,200	

中国塗料	10,000	2,378.00	23,780,000	
ライオン	24,000	1,843.50	44,244,000	
ヤスハラケミカル	500	833.00	416,500	
日東電工	16,900	2,516.50	42,528,850	
エフピコ	8,500	2,898.00	24,633,000	
ユニ・チャーム	8,600	3,888.00	33,436,800	
東和薬品	13,800	2,777.00	38,322,600	
大塚ホールディングス	4,900	8,740.00	42,826,000	
ENEOSホールディングス	56,000	805.40	45,102,400	
横浜ゴム	11,700	3,219.00	37,662,300	
住友ゴム工業	23,500	1,804.00	42,394,000	
西川ゴム工業	9,900	2,200.00	21,780,000	
三ツ星ベルト	8,500	4,040.00	34,340,000	
日本興業	500	726.00	363,000	
東洋炭素	7,800	4,285.00	33,423,000	
神戸製鋼所	25,100	1,505.00	37,775,500	
JFEホールディングス	19,300	1,687.00	32,559,100	
三井金属鉱業	9,300	4,691.00	43,626,300	
三菱マテリアル	14,900	2,350.50	35,022,450	
DOWAホールディングス	7,900	4,506.00	35,597,400	
住友電気工業	15,900	2,868.00	45,601,200	
リョービ	8,800	2,243.00	19,738,400	
中国工業	500	507.00	253,500	
日本製鋼所	8,000	6,205.00	49,640,000	
ディスコ	1,000	41,190.00	41,190,000	
ジェイ・イー・ティ	11,700	1,008.00	11,793,600	
横田製作所	500	1,287.00	643,500	
タツモ	6,300	2,318.00	14,603,400	
住友重機械工業	10,900	3,253.00	35,457,700	
北川鉄工所	14,500	1,183.00	17,153,500	
ローツェ	15,700	1,533.00	24,068,100	
北川精機	500	525.00	262,500	
石井表記	16,300	502.00	8,182,600	
タダノ	19,800	1,139.00	22,552,200	
NTN	123,800	245.80	30,430,040	
ジェイテクト	33,800	1,128.00	38,126,400	
イーグル工業	16,700	2,005.00	33,483,500	
三井E&S	33,500	1,653.00	55,375,500	
カナデビア	38,200	925.00	35,335,000	

三菱重工業	22,400	2,281.00	51,094,400	
I H I	6,500	8,230.00	53,495,000	
三菱電機	16,700	2,649.00	44,238,300	
トレックス・セミコンダクター	21,300	1,190.00	25,347,000	
ダイヘン	6,000	7,430.00	44,580,000	
オムロン	6,800	4,987.00	33,911,600	
アドテック プラズマ テクノロジー	14,800	1,201.00	17,774,800	
パナソニック ホールディングス	29,100	1,608.50	46,807,350	
アオイ電子	8,200	1,908.00	15,645,600	
フェローテックホールディングス	15,400	2,504.00	38,561,600	
ローム	23,100	1,383.00	31,947,300	
京セラ	21,900	1,530.50	33,517,950	
村田製作所	15,200	2,470.00	37,544,000	
川崎重工業	7,200	6,356.00	45,763,200	
内海造船	4,200	3,780.00	15,876,000	
三菱自動車工業	80,200	413.90	33,194,780	
プレス工業	63,200	538.00	34,001,600	
マツダ	18,700	970.20	18,142,740	
エクセディ	10,000	4,730.00	47,300,000	
日本精機	25,800	1,110.00	28,638,000	
JMS	34,700	428.00	14,851,600	
イタミアート	500	944.00	472,000	
ドリームベッド	500	749.00	374,500	
オービス	5,700	1,308.00	7,455,600	
萩原工業	14,500	1,661.00	24,084,500	
南海プライウッド	500	5,260.00	2,630,000	
ウッドワン	14,600	866.00	12,643,600	
大日本印刷	17,700	2,224.50	39,373,650	
研創	500	535.00	267,500	
セーラー万年筆	500	99.00	49,500	
中国電力	22,300	873.50	19,479,050	
四国電力	18,200	1,202.00	21,876,400	
広島ガス	46,100	377.00	17,379,700	
西日本旅客鉄道	15,200	2,778.50	42,233,200	
広島電鉄	500	649.00	324,500	
岡山県貨物運送	500	2,950.00	1,475,000	
ヤマトホールディングス	21,600	1,757.00	37,951,200	
福山通運	5,500	3,740.00	20,570,000	

データホライゾン	4,600	384.00	1,766,400	
東和ハイシステム	500	1,853.00	926,500	
日本電信電話	278,000	154.90	43,062,200	
オルバヘルスケアホールディングス	8,800	2,027.00	17,837,600	
アルフレッサ ホールディングス	17,100	2,219.00	37,944,900	
メディパルホールディングス	14,800	2,440.00	36,112,000	
長瀬産業	13,300	3,171.00	42,174,300	
ポエック	500	1,380.00	690,000	
コンセック	500	1,221.00	610,500	
エディオン	12,900	1,791.00	23,103,900	
ハローズ	5,800	3,995.00	23,171,000	
大黒天物産	2,400	9,800.00	23,520,000	
セブン&アイ・ホールディングス	16,000	2,510.00	40,160,000	
サンマルクホールディングス	9,500	2,581.00	24,519,500	
はるやまホールディングス	32,000	618.00	19,776,000	
マルヨシセンター	500	4,055.00	2,027,500	
ティーツー	90,300	95.00	8,578,500	
青山商事	15,000	2,282.00	34,230,000	
イオン	9,300	3,845.00	35,758,500	
イズミ	6,900	3,191.00	22,017,900	
天満屋ストア	500	1,011.00	505,500	
アシードホールディングス	500	639.00	319,500	
穴吹興産	8,000	1,997.00	15,976,000	
E・Jホールディングス	12,300	1,695.00	20,848,500	
セーラー広告	500	432.00	216,000	
KG情報	500	659.00	329,500	
アスカネット	21,700	453.00	9,830,100	
ウエスコホールディングス	33,800	618.00	20,888,400	
日本郵政	29,400	1,518.50	44,643,900	
フェニックスバイオ	500	337.00	168,500	
合計141銘柄	2,471,300		3,635,182,020	

2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【せとうち応援株式ファンド】

【純資産額計算書】

2025年1月31日現在

I 資産総額	3,005,504,750 円
II 負債総額	10,873,943 円
III 純資産総額（I－II）	2,994,630,807 円
IV 発行済口数	1,968,141,530 口
V 1口当たり純資産額（III／IV）	1.5216 円
（1万口当たり純資産額）	（15,216 円）

（参考）

瀬戸内3県株式マザーファンド

純資産額計算書

2025年1月31日現在

I 資産総額	4,061,942,300 円
II 負債総額	－ 円
III 純資産総額（I－II）	4,061,942,300 円
IV 発行済口数	2,770,728,422 口
V 1口当たり純資産額（III／IV）	1.4660 円
（1万口当たり純資産額）	（14,660 円）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1 名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料

該当事項はありません。

2 受益者等に対する特典

該当事項はありません。

3 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

該当事項はありません。

4 受益権について

ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、ファンドの受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

5 受益権の譲渡および譲渡制限等

① 受益権の譲渡

イ. 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

ロ. イの申請のある場合には、イの振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、イの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

ハ. 委託会社は、イの振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

② 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

6 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

7 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（2025年1月末現在）	1億2,000万円
会社が発行する株式の総数	4,000株
発行済株式の総数	2,400株
最近5年間ににおける主な資本金の額の増減	なし

(2) 委託会社の機構

〈委託会社の意思決定機構〉

委託会社は、3名以上で構成される取締役会により運営されます。

取締役は、委託会社の株主であることを要しません。

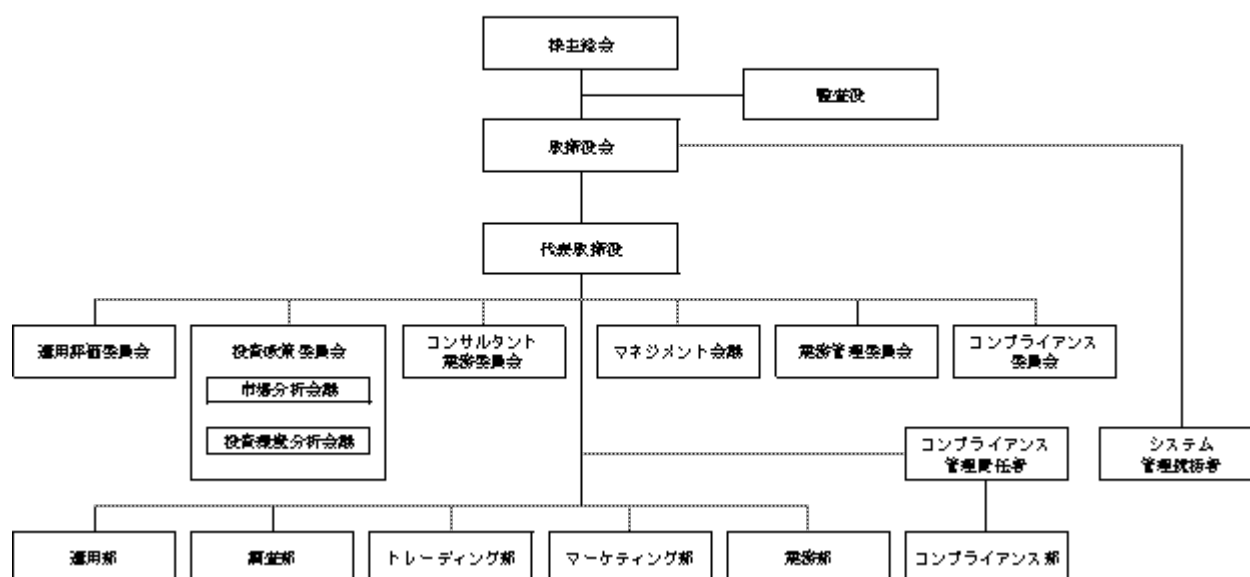
取締役は、株主総会において株主によって選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとします。

取締役会は、代表取締役を選定するほか、取締役社長1名、専務取締役および常務取締役を若干名定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として、取締役社長が招集し、議長となります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席したうえで、出席取締役の過半数をもって行います。

組 織 図



※上記組織は、2025年1月末現在のものであり、今後変更となる可能性があります。

〈運用の意思決定機構〉

投資環境分析会議および市場分析会議は、運用部長を議長として原則月1回開催し、それぞれにおいて経済・社会・金融・国際情勢等の投資環境分析、株式市場等のマーケット分析を行います。

運用評価委員会は、社長を委員長として原則月1回開催し、運用成果の評価・分析および運用リスクの評価を行います。

投資政策委員会は、運用部長を委員長として原則月1回開催し、上記会議の評価・分析内容等を踏まえ、運用対象とする有価証券の種類・銘柄、有価証券に係る投資対象業種別期待収益率、投資対象国別の通貨・株式・債券等の投資価値等の評価・検討を行い、投資方針を決定します。

業務管理委員会は、社長を委員長として原則月1回開催し、運用に係るリスクの管理、コンプライアンスに係る事項の検証を行うことで、運用の意思決定に対する牽制機能としての役割を担っています。

マネジメント会議は、社長または社長が指名する常勤取締役を議長として必要により随時開催し、投資信託の運営に係る事項（商品組成・投資信託約款・分配金・償還等）の審議・決定を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）を行っています。

また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約に係る投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っています。

2025年1月末日現在における、委託会社の運用する証券投資信託は追加型株式投資信託22本、純資産総額は935億円です。（親投資信託を除きます。）

3【委託会社等の経理状況】

- (1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、「財務諸表等規則」並びに同規則第282条及び第306条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- (2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期事業年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。
また、第38期事業年度に係る中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の中間監査を受けております。
- (3) 財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
預金	1,209,319	1,544,049
前払費用	1,745	2,405
未収還付法人税等	180,091	-
未収委託者報酬	154,848	179,749
仮払金	10	99
その他	0	0
流動資産合計	1,546,014	1,726,304
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	320	266
器具備品（純額）	4,640	2,708
有形固定資産合計	※ 1 4,960	※ 1 2,975
無形固定資産		
電話加入権	466	466
無形固定資産合計	466	466
投資その他の資産		
投資有価証券	9,977	9,974
長期差入保証金	7,714	7,714
繰延税金資産	8,882	11,093
投資その他の資産合計	26,573	28,781
固定資産合計	32,000	32,223
資産合計	1,578,015	1,758,528

（単位：千円）

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	708	940
未払金	54,042	60,001
未払手数料	44,634	50,680
その他未払金	9,407	9,320
未払費用	2,736	3,752
未払法人税等	5,920	53,551
未払消費税等	5,888	11,420
契約負債	29,958	29,956
賞与引当金	8,429	12,029
役員賞与引当金	1,484	1,798
流動負債合計	109,168	173,450
固定負債		
退職給付引当金	10,613	11,737
役員退職慰労引当金	3,188	3,998
固定負債合計	13,801	15,735
負債合計	122,969	189,185
純資産の部		
株主資本		
資本金	120,000	120,000
利益剰余金		
利益準備金	30,000	30,000
その他利益剰余金	1,889,771	2,004,070
繰越利益剰余金	1,889,771	2,004,070
利益剰余金合計	1,919,771	2,034,070
自己株式	△584,709	△584,709
株主資本合計	1,455,061	1,569,361
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△15	△18
評価・換算差額等合計	△15	△18
純資産合計	1,455,046	1,569,343
負債純資産合計	1,578,015	1,758,528

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	前事業年度 （自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日）	当事業年度 （自 2023年 4 月 1日 至 2024年 3 月31日）
営業収益		
委託者報酬	529,056	593,455
運用受託報酬	36,360	36,403
投資助言報酬	1,700	1,700
その他営業収益	20,475	19,722
営業収益計	※ 1 ※ 2 587,591	※ 1 651,282
営業費用		
支払手数料	150,296	170,658
広告宣伝費	8,533	4,523
調査費	69,608	75,780
調査費	69,608	75,780
営業雑経費	9,648	10,564
通信費	1,338	1,144
印刷費	6,810	7,924
協会費	1,289	1,284
諸会費	209	210
営業費用計	238,087	261,526
一般管理費		
給料	160,677	173,071
役員報酬	12,132	14,172
給料・手当	87,007	91,530
賞与	28,950	28,813
賞与引当金繰入額	8,429	12,029
役員賞与引当金繰入額	1,712	2,407
法定福利費	22,056	23,638
その他の福利厚生費	388	480
交際費	511	352
旅費交通費	3,324	3,880
租税公課	4,347	4,700
不動産賃借料	8,264	8,264
退職給付費用	2,496	2,527
役員退職慰労引当金繰入額	790	810
固定資産減価償却費	2,445	2,141
諸経費	22,193	28,256

一般管理費計	205,050	※ 2	224,004
営業利益	144,454		165,752
営業外収益			
受取配当金	※ 2	25,370	-
有価証券利息		7	-
受取利息		15	24
雑益		320	192
営業外収益計		25,713	216
営業外費用			
雑損		18	2
営業外費用計		18	2
経常利益		170,149	165,966
特別利益			
投資有価証券売却益		252,343	-
関係会社株式売却益		671,060	-
特別利益計		923,403	-
税引前当期純利益		1,093,552	165,966
法人税、住民税及び事業税		44,588	53,877
法人税等調整額		482	△2,210
法人税等合計		45,070	51,667
当期純利益		1,048,481	114,299

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	120,000	30,000	886,383	916,383	—	1,036,383	△12	1,036,371
当期変動額								
剰余金の配当			△45,093	△45,093		△45,093		△45,093
当期純利益			1,048,481	1,048,481		1,048,481		1,048,481
自己株式の取得					△584,709	△584,709		△584,709
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							△3	△3
当期変動額合計	-	-	1,003,388	1,003,388	△584,709	418,678	△3	418,674
当期末残高	120,000	30,000	1,889,771	1,919,771	△584,709	1,455,061	△15	1,455,046

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	120,000	30,000	1,889,771	1,919,771	△584,709	1,455,061	△15	1,455,046
当期変動額								
剰余金の配当								
当期純利益			114,299	114,299		114,299		114,299
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							△2	△2
当期変動額合計	-	-	114,299	114,299	-	114,299	△2	114,297
当期末残高	120,000	30,000	2,004,070	2,034,070	△584,709	1,569,361	△18	1,569,343

注記事項

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得する建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 3～15年

器具備品 4～20年

3. 引当金の計上基準

（1）賞与引当金

従業員の賞与金の支払に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

（2）役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額に基づき計上しております。

（3）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

（4）役員退職慰労引当金

役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

顧客との取引に係る収益の計上方法

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

委託者報酬

委託者報酬は当社が運用するファンドに係る信託報酬で、ファンドの日々の純財産総額に一定率を乗じて算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

運用受託報酬

運用受託報酬は当社が請け負う投資一任契約に係る報酬で、顧客との投資顧問契約で定める受託資産額、投資顧問報酬率、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

投資助言報酬

投資助言報酬は投資顧問契約に基づき、助言を行うことに係る報酬で、顧客との契約で定める投資顧問報酬額、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

（貸借対照表関係）

※ 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
建物	2,061千円	2,114千円
器具備品	14,619	16,706

（損益計算書関係）

※ 1 顧客との契約から生じる収益

営業収益は、全て顧客との契約から生じる収益であります。

※ 2 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業収益	24,425千円	-千円
受取配当金	21,280	-
一般管理費	-	2,062

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	2,400	—	—	2,400
合計	2,400	—	—	2,400
自己株式				
普通株式	—	1,200	—	1,200
合計	—	1,200	—	1,200

（変動事由の概要）

自己株式の増加1,200株は、グループ再編に伴う自己株式の取得によるものであります。

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	45,093	18,789	2022年3月31日	2022年6月28日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	2,400	—	—	2,400
合計	2,400	—	—	2,400
自己株式				
普通株式	1,200	—	—	1,200

合計	1,200	—	—	1,200
----	-------	---	---	-------

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	57,148	47,624	2024年3月31日	2024年6月28日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は投資信託であり、市場価格の変動リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

投資有価証券については、四半期ごとに時価を把握し、取締役会に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2023年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
投資有価証券			
其他有価証券	9,977	9,977	-
資産計	9,977	9,977	-

＊「預金」「未収還付法人税等」「未収委託者報酬」「未払手数料」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当事業年度（2024年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
投資有価証券 其他有価証券	9,974	9,974	-
資産計	9,974	9,974	-

＊「預金」「未収委託者報酬」「未払手数料」「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注1) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（2023年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,209,319	-	-	-
未収還付法人税等	180,091	-	-	-
未収委託者報酬	154,848	-	-	-
合計	1,544,258	-	-	-

当事業年度（2024年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,544,049	-	-	-
未収委託者報酬	179,749	-	-	-
合計	1,723,799	-	-	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度（2023年3月31日）

区分	時 価 （千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
投資有価証券 その他有価証券 投資信託	—	9,977	—	9,977
合 計	—	9,977	—	9,977

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は、基準価額を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

当事業年度（2024年3月31日）

区分	時 価 （千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
投資有価証券 その他有価証券 投資信託	—	9,974	—	9,974
合 計	—	9,974	—	9,974

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は、基準価額を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

その他有価証券

前事業年度（2023年3月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,977	10,000	△22
合 計	9,977	10,000	△22

当事業年度（2024年3月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,974	10,000	△25
合 計	9,974	10,000	△25

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した退職給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	10,699千円	10,613千円
退職給付費用	1,996	1,880
退職給付の支払額	2,082	756
退職給付引当金の期末残高	10,613	11,737

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	10,613千円	11,737千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,613	11,737
退職給付引当金	10,613	11,737
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,613	11,737

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用（注） 前事業年度2,496千円 当事業年度2,527千円

（注）出向受入者に係る費用負担の金額を含んでおります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産の発生 の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年 3 月31日)	当事業年度 (2024年 3 月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	3,236 千円	3,579 千円
賞与引当金	2,570	3,668
未払事業税等	1,047	1,766
減価償却費	456	125
未払事業所税	146	159
その他	1,423	1,792
繰延税金資産合計	8,882	11,093

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2023年 3 月31日)	当事業年度 (2024年 3 月31日)
法定実効税率	30.5 %	— %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1	—
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△26.5	—
住民税均等割	0.0	—
評価性引当額の増減額	0.0	—
その他	0.0	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	4.1	—

*当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

	前事業年度 (自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日)	当事業年度 (自 2023年 4 月 1日 至 2024年 3 月31日)
営業収益		
委託者報酬	529,056千円	593,455千円
運用受託報酬	36,360	36,403
投資助言報酬	1,700	1,700
その他	20,475	19,722
顧客との契約から生じる収益	587,591	651,282

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針 4. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	158,689	154,848
契約負債	29,956	29,958

契約負債は、投資一任契約に基づく運用受託報酬として、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、29,956千円であります。

(単位：千円)

	当事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	154,848	179,749
契約負債	29,958	29,956

契約負債は、投資一任契約に基づく運用受託報酬として、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、29,958千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、当初に予定される契約期間が1年以内であるため、残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間の記載を省略しております。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024 年3月31日）

１．サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（１）営業収益

本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

[関連当事者情報]

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	(株)中国銀行	岡山県岡山市北区	15,149	銀行業	—	投資一任契約 投信の販売委託 コンサルタント 投資助言 役員の兼任 貸借契約	投資一任の受託 投信の販売委託 コンサルタント業務の提供 投資助言サービスの提供 保証金の差入	27,996 38,345 20,475 500 —	契約負債 未払手数料 — — 長期差入保証金	29,958 13,404 — — 7,604
同一の親会社を持つ会社	中銀証券(株)	岡山県岡山市北区	2,000	第一種金融商品取引業	—	投信の販売委託	投信の販売委託	65,748	未払手数料	16,812
同一の親会社を持つ会社	中銀カード(株)	岡山県岡山市北区	50	クレジットカード業	—	—	自己株式の取得 投資有価証券売却	58,470 254,843	— —	— —
同一の親会社を持つ会社	中銀リース(株)	岡山県岡山市北区	50	リース業	—	—	自己株式の取得	243,629	—	—
同一の親会社を持つ会社 その他の関係会社	中銀保証(株)	岡山県岡山市北区	50	保証業	—	—	自己株式の取得 関係会社株式の売却	282,609 673,760	— —	— —

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投資一任の受託に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投信の販売委託に関しては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

コンサルタント業務の提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投資助言サービスの提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

3. 投資有価証券の売却、自己株式の取得及び関係会社株式の売却における譲渡価格は対象会社の純資産等を基礎として協議の上、決定しております。なお、損益計算書においては投資有価証券売却益252,343千円及び関係会社株式売却益671,060千円が特別利益に計上されております。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	(株)中国銀行	岡山県岡山市北区	15,149	銀行業	—	投資一任契約 投信の販売委託 コンサルタント 投資助言 役員の兼任 賃借契約	投資一任の受託 投信の販売委託 コンサルタント業務の提供 投資助言サービスの提供 保証金の差入	28,002 38,929 19,722 500 -	契約負債 未払手数料 - - 長期差入保証金	29,956 12,310 - - 7,604
同一の親会社を持つ会社	中銀証券(株)	岡山県岡山市北区	2,000	第一種金融商品取引業	—	投信の販売委託	投信の販売委託	78,067	未払手数料	20,610

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投資一任の受託に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投信の販売委託に関しては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

コンサルタント業務の提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投資助言サービスの提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

(株)ちゅうぎんフィナンシャルグループ（東京証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	1,212,538円36銭	1,307,785円86銭
1株当たり当期純利益金額	582,489円81銭	95,249円23銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益(千円)	1,048,481	114,299
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,048,481	114,299
普通株式の期中平均株式数(株)	1,800	1,200

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	当中間会計期間末 (2024年9月30日)
資産の部	
流動資産	
預金	1,509,394
前払費用	1,803
未収委託者報酬	194,739
契約資産	935
仮払金	225
その他	21
流動資産合計	1,707,119
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	240
器具備品（純額）	1,915
有形固定資産合計	※ 1 2,155
無形固定資産	466
投資その他の資産	
投資有価証券	9,977
長期差入保証金	7,714
繰延税金資産	10,984
投資その他の資産合計	28,675
固定資産合計	31,297
資産合計	1,738,416

(単位:千円)

当中間会計期間末 (2024年9月30日)	
負債の部	
流動負債	
預り金	621
未払金	61,573
未払手数料	53,592
その他未払金	7,981
未払費用	3,130
未払法人税等	30,097
未払消費税等	※ 2 12,592
契約負債	14,513
賞与引当金	11,010
流動負債合計	133,539
固定負債	
退職給付引当金	12,729
役員退職慰労引当金	4,403
固定負債合計	17,132
負債合計	150,671
純資産の部	
株主資本	
資本金	120,000
利益剰余金	
利益準備金	30,000
その他利益剰余金	2,022,470
繰越利益剰余金	2,022,470
利益剰余金合計	2,052,470
自己株式	△584,709
株主資本合計	1,587,760
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	△15
評価・換算差額等合計	△15
純資産合計	1,587,745
負債純資産合計	1,738,416

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	350,561
運用受託報酬	19,484
投資助言報酬	850
その他営業収益	9,475
営業収益計	380,370
営業費用	
支払手数料	100,608
広告宣伝費	2,799
調査費	42,253
その他営業費用	5,235
営業費用計	150,897
一般管理費	※ 126,280
営業利益	103,193
営業外収益	271
営業外費用	1
経常利益	103,463
税引前中間純利益	103,463
法人税、住民税及び事業税	27,806
法人税等調整額	108
法人税等合計	27,914
中間純利益	75,548

（３）中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	120,000	30,000	2,004,070	2,034,070	△584,709	1,569,361	△18	1,569,343
剰余金の配当			△57,148	△57,148		△57,148		△57,148
中間純利益			75,548	75,548		75,548		75,548
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)							2	2
当中間期変動額合計	-	-	18,399	18,399	-	18,399	2	18,402
当中間期末残高	120,000	30,000	2,022,470	2,052,470	△584,709	1,587,760	△15	1,587,745

注記事項

(重要な会計方針)

	当中間会計期間 (自 2024年4月 1 日 至 2024年9月 30 日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得する建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 建物 3～15年 器具備品 4～20年 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。
3. 引当金の計上基準	(1)賞与引当金 従業員の賞与金の支払に備えるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (2)役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額に基づき計上しております。なお、中間会計期間における計上額はありません。 (3)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。 (4)役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準	顧客との取引に係る収益の計上方法 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。 委託者報酬 委託者報酬は当社が運用するファンドに係る信託報酬で、ファンドの日々の純財産総額に一定率を乗じて算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。 運用受託報酬 運用受託報酬は当社が請け負う投資一任契約に係る報酬で、顧客との投資顧問契約で定める受託資産額、投資顧問報酬率、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。 投資助言報酬 投資助言報酬は投資顧問契約に基づき、助言を行うことに係る報酬で、顧客との契約で定める投資顧問報酬額、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。
----------------	---

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末 (2024年9月30日)	
※ 1 有形固定資産の減価償却累計額	19,641千円
※ 2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺の上、「未払消費税等」として表示しております。	

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	
※ 減価償却実施額 有形固定資産 819千円 無形固定資産 -	

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1.発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式 普通株式	2,400	—	—	2,400
合計	2,400	—	—	2,400
自己株式 普通株式	1,200	—	—	1,200
合計	1,200	—	—	1,200

2.配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年6月27日 定時株主総会	普通 株式	利益剰余金	57,148	47,624	2024年 3月31日	2024年 6月28日

- (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

(金融商品関係)

当中間会計期間末（2024年9月30日）

1.金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
(1) 投資有価証券 其他有価証券	9,977	9,977	-
資産計	9,977	9,977	-

(注) 「預金」「未収委託者報酬」「未払手数料」及び「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2.金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

区分	時 価 （千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
投資有価証券 その他有価証券 投資信託	—	9,977	—	9,977
合計	—	9,977	—	9,977

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は、基準価額を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

当中間会計期間（2024年9月30日）

その他有価証券

	中間貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,977	10,000	△22
合計	9,977	10,000	△22

（収益認識関係）**1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報**

当中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）
（単位：千円）

営業収益	
委託者報酬	350,561
運用受託報酬	19,484
投資助言報酬	850
その他	9,475
顧客との契約から生じる収益	380,370

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針4.収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

（セグメント情報等）**[セグメント情報]**

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報**（1）営業収益**

本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり純資産額	1,323,120円88銭
1株当たり中間純利益金額	62,957円28銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益金額（千円）	75,548
普通株主に帰属しない金額（千円）	—
普通株式に係る中間純利益金額（千円）	75,548
普通株式の期中平均株式数（株）	1,200

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ① 自己又はその取締役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ② 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ③ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ④ 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ⑤ ③④に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（1）受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

① 資本金の額

2025年1月末現在、324,279百万円

② 事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

（2）販売会社

名 称	資本金の額（百万円） 2025年1月末現在	事業の内容
株式会社中国銀行	15,149	日本において銀行業務を営んでおります。
中銀証券株式会社	2,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
アイザワ証券株式会社	3,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社トマト銀行	14,310	日本において銀行業務を営んでおります。

2【関係業務の概要】

（１）受託会社は、主に以下の業務を行います。

- ① 信託財産の保管、管理および計算
- ② 委託会社の指図に基づく信託財産の処分

（２）販売会社は、主に以下の業務を行います。

- ① 受益権の募集の取扱い
- ② 収益分配金の再投資
- ③ 収益分配金、償還金および解約金の支払いの取扱い
- ④ 投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の交付の取扱い
- ⑤ 解約請求の受付、買取請求の受付・実行

3【資本関係】

（１）受託会社

該当事項はありません。

（２）販売会社

該当事項はありません。

第3【その他】

- 1 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」と称することがあります。
- 2 目論見書の表紙または表紙裏に、以下を記載することがあります。
 - （1）目論見書の使用開始日
 - （2）ファンドの基本的性格等
 - （3）委託会社の名称、金融商品取引業者登録番号、設立年月日
 - （4）委託会社の電話番号および受付時間ならびにインターネット・ホームページのアドレス
 - （5）図案、キャッチコピー、委託会社のロゴマーク等
- 3 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文言の全部または一部を記載することがあります。
 - （1）金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である旨
 - （2）ファンドの財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - （3）ファンドに関する投資信託説明書（請求目論見書）を含む詳細な情報は委託会社または委託会社のホームページにおいて閲覧できるほか、投資者の請求により販売会社から交付される旨
 - （4）投資信託約款の全文は請求目論見書に掲載されている旨
 - （5）有価証券届出書の効力発生および効力発生の有無について委託会社への照会先にて確認できる旨
 - （6）ファンドの内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨
 - （7）ファンドの財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - （8）販売会社に請求目論見書を請求した場合にはその旨を自身で記録しておくべき旨
 - （9）ファンドの販売会社および基準価額等について委託会社の照会先にて問い合わせができる旨
 - （10）ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みいただきたい旨
- 4 目論見書は電子媒体等として使用されるほか、インターネット等に掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

2024年6月28日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 齊藤 幸治

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている中銀アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、中銀アセットマネジメント株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年2月26日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 齊藤 幸治

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているせとうち応援株式ファンドの2023年12月16日から2024年12月16日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、せとうち応援株式ファンドの2024年12月16日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2024年11月29日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 武士 雄太

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている中銀アセットマネジメント株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第38期事業年度の中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、中銀アセットマネジメント株式会社の2024年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入

手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。